

多くの研究活動を支える、
多彩なバックアップ制度。



修学支援制度

大学院生の修学に対し、経済的な支援を目的とした制度です。2019年度より、従来の制度を見直し以下のとおり実施します。

修士課程

■法政大学100周年記念大学院修士課程奨学金

修士課程に在籍する大学院生への修学支援として、経済的支援を行うことを目的としています。

本制度は、2019年度より従来の「法政大学100周年記念大学院特別奨学金」と「法政大学大学院奨学金」を統合し、修士課程学生を対象とし、応募資格を有する申請者の中から選考の上、200,000円が支給されます。



留学・研究奨励制度

本学では、学生の海外留学や学会発表による学術研究を奨励し、研究力や資質の向上を目的とした制度を設けています。2010年度より進めている大学院改革の流れを受け、より制度の有効活用を図るため、従来の制度を見直し2019年度から以下のとおり実施します。

■法政大学大学院海外留学補助金

〔2019年度〕

海外留学による学術研究を奨励し、資質の向上を図ることを目的とします。留学した大学等において履修した科目のうち、専攻が適当と認められたものは、本学大学院の課程修了に必要な単位・科目として認定されます。

〔2020年度〕

上記の大学院海外留学補助金と政治学研究科国際政治学専攻特別海外留学奨学金を統合して拡充し、より大学院生の海外留学を促進します。2019年度に募集を行います。

■法政大学大学院学生論文掲載料補助

国内・国外での学術論文発表を奨励するため、100,000円を上限にかかった費用を補助します。

■法政大学大学院学会等発表補助金

法政大学大学院学生学会発表奨励金及び法政大学大学院海外における研究活動補助を見直し、国内30,000円、国外70,000円を上限

博士後期課程

■法政大学大学院博士後期課程研究助成金

博士後期課程に在籍する大学院生への修学支援として、学術活動を奨励し高度な研究能力と豊かな学識を有する若手研究者を育成するため、経済的な支援を行うことを目的としています。

本制度は、2019年度より従来の「博士後期課程研究助成金(A)」と「博士後期課程研究助成金(B)」を統合し、より拡充され、文系研究科300,000円、理系研究科450,000円が支給されます。

なお、本助成金は、原則として応募資格を有する申請者全員に給付されます。

に実費を補助することにより、学会等での発表を奨励します。

■法政大学大学院現地調査実施費用補助

市ヶ谷、多摩キャンパスで開設している研究科の学生を対象に、国内30,000円、国外70,000円を上限に実費を補助します。

■法政大学大学院諸外国語による論文等校閲補助

国内外の学会発表や研究論文を、英語をはじめとする母語以外の諸外国語で執筆する際に、外国語で執筆した研究論文などの校閲費用について、100,000円を上限に実費を補助します。

■法政大学大学院学生研究補助金

大学院生の研究を支援するため、各専攻の学生研究に要する書籍、消耗品、印刷費等の費用を補助します。

■法政大学大学院優秀博士論文出版助成金

優秀な博士論文の出版費用を補助することで、博士学位取得者の研究者としてのキャリア形成、研究実績の蓄積を支援します。審査の上1,000,000円を上限に出版に要した費用を助成します。

VOICE

私が利用した制度

※2018年度までの奨学金・研究助成制度を利用された方の紹介です。

目標だったカンボジア留学を経験 現地の文化に触れ、第二の故郷ができました



高田 風花

人文科学研究科史学専攻
修士課程 2017年度修了

東洋考古学を専攻しており、特にカンボジアを中心に現地の文化や時代背景を研究していました。カンボジアへの留学を一つの目標に大学院への進学を選択し、実際の留学では海外保険や航空券などまとまった金額が必要になるため「大学院学生海外留学補助金」を利用しました。補助金として100万円程度が支給され、振込が一括で行われることは大きなメリットでしたね。留学先では、博物館や寺院を巡ったことを印象深く覚えています。カンボジアでは、日々のお参りが日常になっているだけでなく、子どもたちや学生が寺院の寄宿舎で生活するなど、仏教が人々の生活に密接に関わっています。けれど、ナーガと呼ばれる蛇神の信仰も厚く土着と仏教の信仰が混じるなど興味深い文化が形成されており、現地の風土を肌で感じられる良い経験ができました。留学は、知らない世界に自分の身を置くことです。それはとても勇気のいる行動ですが、価値観が広がり、人として成長できます。何よりも第二の故郷ができたことは留学ならではの魅力であり、カンボジアに帰る場所ができたことは私の精神面の支えとなっています。

奨学金制度のおかげで 深く研究に従事することができました



ディラワリ ドリケン

理工学研究科
システム理工学専攻
博士後期課程 2017年度修了
JIPテクノサイエンス株式会社勤務
日本学術振興会(JSPS)特別研究員
(法政大学理工学部PD)

エコ分散システムの構築からサーバの消費電力を低減できる情報システムの省電力化に取り組んだ研究をしています。学部生の頃から通信技術を学んでいましたが、私が通っていた大学の多くの先生が日本への留学を経験されており、話を伺っているうちに日本の大学院への進学を目指すようになりました。中でもコンピュータネットワークの分野で国際的に著名である滝沢誠先生に師事したいと考えたことが法政大学大学院を選択した一番の要因です。

一方で、私費留学生だったため、生活費をアルバイトで得なければならず、研究に費やす時間が足りないと感じていました。そこで、外国人留学生に対して適応される学費減免の制度を調べ、奨学金・研究助成金制度を申請し利用しました。おかげで財政的負担が軽減され、研究に打ち込む時間が増加したとともに金銭面での不安がなくなることで精神的に余裕ができ、研究効率が上がるなど好循環が生まれましな。法政大学大学院はグローバルな環境にあり、制度が整っています。どのようなことでも一度先生に相談することをおすすめします。